



このレポートは、私・和仁が毎月のコンサルティング活動や日常生活を通して気づき、学ばせて頂いたことを書き留めたものです。
お気軽にご笑読頂ければ幸いです。

【今月の気づき】

『イメージ力UPの公式＝対話量×経験量×好奇心』



今でこそ、わたしは「ビジョンを描こう」「理想をイメージしてみよう」と人に言っていますが、ほんの十数年前の社会人になりたての頃は、いくらイメージしようとしても頭の中に映像が浮かぶことはほとんどありませんでした。

成功哲学本を読むと、「イメージしたことが現実化する」と言うし、スポーツ同様、本番前にイメージしないと不安で仕方がなかったのですが、どうしてもイメージができない。言い方を変えると、先を読む力がなかったのです。そのため、はじめは無理やり言葉を紡いで、それを自分に思い込ませていたわけで、今思えばわたしの言葉には臨場感や説得力がなかったように思います。

そんなわたしが、「なぜ、今ではさほど苦労もなく先のイメージができるのか？」と振り返ってみました。その答えはずばり、「**経験量**」の引き出しが増えたからです。でも、はじめは誰もが経験量は少ないものです。そこで今すぐできることは、**自分ない経験をした人との対話量を増やす**こと。そしてそれらを積み重ねるうちに少しずつ興味がわくものが見つかり、**好奇心が開発され、磨かれる**。そして、好奇心が経験量を引き上げていく。つまり**イメージ力は、「人との対話量」「経験量」そして「好奇心」の相乗効果で磨かれていく**ということです。

もともと好奇心旺盛な人は、それを原動力にして人に尋ねたり、調べたり、実践したりとどんどん行動を起こしていけるのでしょしょうが、誰もがはじめからそうだとは限りません。社会人になりたての頃のわたしのように、はじめは好奇心がそれほど高くない人でも、まずは対話量を増やし、経験を積み重ねていくうちに、気がつくところある分野においては好奇心が高まり、さらに経験したくなる中で、イメージ力は磨かれていくことを知りました。

そして、ひとつの分野で深く掘り下げてイメージできる力が身につくと、不思議とそれは全く関係ない分野のことでも応用できることもあるようです。スポーツの超一流選手が超一流ミュージシャンとの対談でものすごく話がシンクロして盛り上がる場面を見たことがありますが、それは自分の領域でトコトン深掘りして考え抜いて生きている者同士だからこそ、お互いの話が手に取るようにイメージできるからでしょう。

イメージ力を磨くはじめての一步。対話量を増やすことから始めてみては？

【今月の一冊から】

『自分の才能は、人に教えてもらう。』

> ぼくがこのキャラクターになるまでに、じつはかなりの時間がかかった。恥ずかしかった。
> 人前で変な顔をしたり、変なポーズを取ったり、以前はそういうことが全然できなかった。
> 恥ずかしいものは、道化師になったって変わらず恥ずかしい。道化師のぼくがいうのもな
> んだけど、ぼくは人よりよっぽどまじめな性格なんだと思う。転機は、ある人から公演で
> 「バカキャラをやってくれ」と頼まれたこと。イヤだったんだけどなぜか断りきれなかつ
> た。「人からの頼み」って、たぶんすごい力を持っているのだろう。無理やり背中を押さ
> せたぼくは、なかばヤケクソぎみに「バカキャラ」になることになった。恥はひとたび捨
> てると、なぜ今までそんなことを恥ずかしがっていたのか、自分でも思い出せなくなるも
> のだ。懸命になってドジを演じているうちに、いつの間にか「自分」と「役柄」との境目
> が消え、環境の笑い声に包まれながら、ぼくはステージと一体になっていた。自分の殻を
> 破った瞬間。それはとてもすばらしい気分だった。才能は探すものじゃない。人とのかか
> わりあいの中で、自然に見つかるものかもしれない。そのときつくづくそう思った。

（『ホスピタルクラウン』 大棟耕介 著 サンクチュアリ出版 P.55 より引用）

「人生は才能探しの旅である」とは、東京ディズニーランドの元総合プロデューサーの堀貞一郎先生の言葉。数々の偉業を成し遂げてこられた上に、多彩な趣味も楽しまれ、まさに人生を謳歌されている人物ならでは、含蓄のある深いお話でした。数年前にこのお話を伺ったときから、「ぼくの才能って、一体何だろうか？」という問いかけが始まりました。でもこれをイスに座っていくら自問しても、答えはなかなか出てきません。なぜでしょう？

それはおそらく、**自分の才能は、自分としては当たり前過ぎて、目に留まらずにやりすごしてしまう**からです。

- 人が自分にどのような頼みごとをしてくるかに注目する。
- あなたが何をしたときに、人が喜んでくれているかに注目する。
- 人に、直接聞いてみる。

そんなことをしていくうちに、わたしは自分の才能は、「人の話を楽しく“積極的に”聴けること」「難しいことをわかりやすく表現すること」「コツコツ続けること」の3つだろうと、今のところは思っています。振り返ってみれば、その3つを武器にして、コンサルティングや執筆・講演など今の仕事をしていることにも気づかされます。そして、それがわかっていると、その才能をますます発揮しようという気にもなり、仕事が楽しくなります。

あなたは、ご自身の才能は何か、つかんでいますか？